

# 進化!ぶぐぶぐ

「ピーンポーン」

今年もおじいちゃんからぶどうがときました。

「ぶどうだ、ぶどうだ!」

おじいちゃんは、毎年ぶどうを夏に送ってくれます。おじいちゃんのぶどうは、味がこくてあまいです。

「今年はつぶどうはどうだろう?」

お母さんが受け取りのほんこをおしおわっていないのに、ゲームテープをびりびりやぶいて二だん重ねのダンボールをあけてみました。

「おーでっかい。」

一つぶ一つぶがすくく大きい!しかも一ふさにぎっしり実がつまっています。どの実もさむくはないのにおしくらまんじゅうをしているようです。一口で食べきれないほどの大きさだけど、食べてみたら、口がフクのようになっていました。すると口の中いっばいに、あまいジュースがじゅわーっとしみ出してぶどう天国にとうちやくしました。このおいしさに感どうして、次から次へと手が止まりません。今年のぶどうはさい高です。

そんなおじいちゃんのさい高のぶどうですが、ぼくがようち園生のころは、今年のぶどうよりも、つぶが小さかったり、ふさからぼろぼろ落ちてしまっていました。でも、ぼくが小学一年生の時には、ふさからぼろぼろ落ちないぶどうになりました。そして、きよ年のぶどうは今年よりは小さいけれど、一つぶ

ずつの実が大きくなりました。おじいちゃんのぶどうは、毎年進化しています。

そういえば、前にいっしょにぶどうのう園へ行った時におじいちゃんが、のう家の人に一生けんめい話を聞いていたことがあります。それから、おばあちゃんが、

「ぶどうのふさが大きくなる前に、ふさの先の青い実を切ると、ぶどうの実が大きくなるんだよ。」

と言っていたのを思い出しました。ぼくがようち園生のころから、味はこくてあまくておいしかったけれど、おじいちゃんとおばあちゃんは、よりおいしくそだてるために工夫してきたのだと今年のぶどうを食べて分かりました。

毎年夏になるとぼくはおじいちゃん、おばあちゃんと、りよ行に行きます。その時に、自分たちの荷物もたくさんあるのに、大きなダンボールに、二だん重ねで、ぶどうも持って来てくれます。

「理仁君たちがおいしいおいしいって言ってくれるからね。」とニコニコしながらぶどうを出してくれます。ぼくは、りよ行も楽しみですが、ぶどうも楽しみです。

おじいちゃん、おばあちゃんからぼくは、ど力すれば、けっかが出ることをぶどうから教わりました。いつもおいしいぶどうをどうもありがとうございます。

重白 理仁